

弘教寺



第62号
 発行所
 伊勢崎市境米岡二七九二
 浄土真宗本願寺派弘教寺
 寺報編集部
 電話0120(七四)05七三



寺のQR

老・病・死の只今を生きる

弘教寺住職 中山英昭

七十代半ばになり、日頃葬儀等で何百回と語ってきたお釈迦様の三大苦(老・病・死)が身に染みます。理屈では分かっているもわが身のこととしては本当に分かっていないのか疑問であります。

【老いを感じて】

一昨年のことでした。パンを買いに駐車場に車を止め、道路を横切り歩道の段を上がろうとしたとき、足がつかず、顔面から倒れ、メガネは飛んでかけられない程に曲がってしまいました。額と頬は血がにじみ、恥ずかしいやら、情けないやら、複雑な思いでした。老いを痛感しました。スマホやメガネはどこへ行ったか探し廻るのは日常茶飯事。

あわてて買い物に出かけたのは良いのですが、「はて?何をかうんだっけ」と思い出せない。「弱ったもんだ」と妻に電話。悲しきかな「老い」の現実です。

【病と生きる】

昨年二月から腎臓の機能が低下し、人工透析を開始しました。週三回。通う時間を含めて5時間かかります。一年に百五十回以上の通院はしんどいことです。でも拒めば、命の

保障はないことなので、ひたすら通い続けております。若い時、お年寄りには病院通いで大変だなど思っていたことが、身に染みて感じられます。高額医療費の対象ですので、自己負担が少なく、助かります。全額負担であれば、経済的に破綻すると思います。日本の医療制度のありがたさを痛感致します。若い世代にご負担をおかけすることは申し訳ないことと切に思います。

【死を思う】

かつて「死」を語ることはタブーでした。「縁起でもない」と叱られました。古来「北枕で寝るな」「友引の日に葬儀をするな」など根拠なき慣習であったり、葬儀の折に清めの塩を用いたり、「死」を想起させる4の字が嫌われたり、病室に4号室を置かない、逆さ屏風をおいたり、仏事のお包みにお札を裏側に入れて入れたり枚挙に暇がありません。

最近では終活と言って葬儀社さんも事前予約や相談が出来るようになりました。核家族化が進み、エンディングノート等で自身の思いを残せるようになってきました。現実的な思いから生まれたものと考えます。そのことで死が身近に語られるようになりました。つい最近まで癌など重篤な病気ですと医師は家族には伝えますが、本人には伝えることを避け

てきました。今では本人への告知が行われるようになって、死という現実を前に、医師や家族が同じ方向で共に治療に専念出来るようになったことは良いことと思います。

高崎の介護施設にボランティアでお話に伺った時、院長さんが「皆さんはもう直ぐお別れするのですから、しっかりとお話を聞いてください。」と言われた時は驚きました。こういう関係が築ければ素晴らしいことと思います。当時着任したばかりの看護師長さんかから聞かされたのは、お亡くなりになった患者さんは病院スタッフが正面玄関に並び堂々と送り出すことだと言っておりました。

ほとんどの病院では裏口から、それも忙しく追い出されてしまうことを思うとき、この病院の「人間の尊厳」を大切にする行為は素晴らしいことと思えました。

昨年のNHKの大河ドラマ「べらぼう」の中にも出ておりました大田南畝の『今までは人のことだと思ふたに、俺が死ぬとはこいつはたまらん』わが身のことだと気付くこと大切ですね。

この人ごとではない死が身近に迫っている中で、どう人生を締めくくったら良いか。念仏の道を歩むものとして、どう終えてゆけるか、終末の課題として行きたいと深く考える今日この頃です。 合掌



お釈迦さま

餅つき会

昨年十二月十三日に恒例の餅つき会が開催されました。年々参加者が多くなり、子供たち、父母等含めて60名以上の皆さんが参加してくれました。

九時半から本堂でお勤め、ご法話を聞いてその後、境内

地に出て、いよいよ餅つきが始まります。境内の臼を中心の周りに座っていただき、スタッフによる餅つきのデモンストレーション、続いて子供たちが小さな杵で順についていきます。お母さん方も続いてつきました。できた



ての餅をスタッフの方が一口大に分けていきます。あん餅、きな粉餅、からみ餅が皿に盛られ、思い思いに食べました。からみ餅が子供たちに人気だったのは意外でした。

参加人数の多さもあり、お土産の餅が少なくなっ

住職

はなまつり

4月4日(土)、はなまつりが開催されました。参加者は子供7名(親5名)、大人7名とスタッフを含め計30名でした。住職とお勤め、副住職の法話、紙芝居、蓮の花作り、作った花を手に「こどものはなまつり」を歌い、お釈迦様の誕生仏に甘茶かけ、カレー会食、最後に恩徳讃を歌って解散となりました。



蓮の花作りは、薄い色紙の先をとがらせて、紙コップにポンドで張り付けていくだけの行程ですが、なかなか難しく、みんな真剣に集中して取り組んでいきました。それぞれに時間はかかりながらも、どれも出来は良く、完成した花が並んだテーブルがとても華やかになりました。

紙芝居は「かしこいおうむ」。籠の中に大量にとらえられたオウムの一匹が、自分が食べられるためにつかまったのだと気づくお話でしたが、短いお話だったので子供たちからは早くも次の紙芝居が切望されることとなりました。

甘茶かけでは、それぞれの蓮の花をお釈迦様にお供えて甘茶をかけました。一人一人が丁寧に作った蓮の花とともに甘茶をかけて手を合わせる姿は大変素晴らしいものでした。

子供たちが待ちに待ったカレー会食は、坊守が用意したカレーやお米が足りなくなるのではないかと心配するほど大人気で、みんながおかわりして味わっていました。

参加していただいた皆様に楽しんでいただけて、大変良いイベントとなりました。また来年も楽しいはなまつりを開催したいと思えます。

釋真瑛

参加者の感想

◎甘茶が何とも言えない味だった。あまりおいしくなかったけれど貴重だから飲めてよかった。蓮を上手に作る手ができなかつたから次は上手につくりたい。◎蓮づくりで上手に作れた。◎蓮茶で五億回チャレンジしたいです。◎楽しかった。カレーうまし。蓮の花、家に飾ります。そして、また来ます!!! カレーうまかつたぞ!!! うまかつたぞ!!! ◎蓮の花を作るのが楽しかったのと、難しかったです。話が長くて嫌になった。カレーが熱くて辛さが少し増すけどおいしかった。◎らいはいのうた、少し歌えるようになっていました。紙芝居もワークショップも楽しかったです。◎とても楽しいイベント「花まつり」に参加できてよかったです。ご法話も大変勉強になりました。紙芝居や蓮華の花作りも貴重な体験でした。お話一つ一つが興味深くお釈迦様に感謝しようと思いました。細かい準備やお心遣いまで、ありがとうございます。◎お釈迦様、奇跡の誕生日にびっくりに！誕生日は親に感謝する日、本当にそう思います。生まれたことが奇跡。生きていることに感謝して謙虚に生きていきたいと思えます。◎初めて甘茶をいただきましたが、さわやかな香りに甘さが加わり不思議な味でした。そのあと飲んだ水まで甘かったです。カレーもとてもおいしくいただきました。ありがとうございます。



◎甘茶が何とも言えない味だった。あまりおいしくなかったけれど貴重だから飲めてよかった。蓮を上手に作る手ができなかつたから次は上手につくりたい。◎蓮づくりで上手に作れた。◎蓮茶で五億回チャレンジしたいです。◎楽しかった。カレーうまし。蓮の花、家に飾ります。そして、また来ます!!! カレーうまかつたぞ!!! うまかつたぞ!!! ◎蓮の花を作るのが楽しかったのと、難しかったです。話が長くて嫌になった。カレーが熱くて辛さが少し増すけどおいしかった。◎らいはいのうた、少し歌えるようになっていました。紙芝居もワークショップも楽しかったです。◎とても楽しいイベント「花まつり」に参加できてよかったです。ご法話も大変勉強になりました。紙芝居や蓮華の花作りも貴重な体験でした。お話一つ一つが興味深くお釈迦様に感謝しようと思いました。細かい準備やお心遣いまで、ありがとうございます。◎お釈迦様、奇跡の誕生日にびっくりに！誕生日は親に感謝する日、本当にそう思います。生まれたことが奇跡。生きていることに感謝して謙虚に生きていきたいと思えます。◎初めて甘茶をいただきましたが、さわやかな香りに甘さが加わり不思議な味でした。そのあと飲んだ水まで甘かったです。カレーもとてもおいしくいただきました。ありがとうございます。

「牛乳パックで鍋敷き作り」

三寒四温でまだまだ寒い日々、春が待ち遠しいです。二月二十日は一年に一回の手芸教室。事前に十日、数人で坊守さんと佐々木さんより教えて頂き準備しました。

当日は和気あいあいの作業でした。底だけ切って平たくたたんだ牛乳パックを一・五cm幅に輪切りにしたものを十四本作りながら、それを縦横互い違いに紙の間に通しながら、井桁に組んでいきます。「被せる」「入れる」と呪文を唱えるように組み合わせます。七枚目に入れる時とてもきつく、少々支障のある手には、苦勞です。それでも仕上げれば、嬉しいです。苦勞のし甲斐がありました。



完成し互いに見せ合い、自分の鍋敷きを掲げて、本堂で記念写真を撮って頂きました。お昼には、有志の方が前日よりカレーを仕込んで下さり、参加者十三名で美味しく頂きました。楽しい時間をありがとうございました。

小林和江
合掌



そうだ、お寺に行こう！

—サークル活動の現状—

【マーじゃん同好会】

毎月一回離れの部屋で実施。午後一時開始で、毎回3組で競います。夕方には終了する健康マーじゃんで楽しんでおります。

【囲碁の会】

毎月第二火曜日に一時半から憩いの部屋で対局しています。現在は級位者から二段クラスのメンバー数人で対局中。習いたての方、新たに始めたい方大歓迎。是非ご参加下さい。

【パソコン教室】

『65歳からのパソコン・スマホ』のテキストで、毎月第二・第四水曜日の九時より学びます。初歩的な操作や応用にも応じて楽しむ教室です。

【カラオケ同好会】

毎月第二金曜日の午後一時～四時まで、境駅北の「GSスタジオ」で歌っています。新曲から懐メロまで楽しんでます。是非お出かけ下さい。

【ゴルフ会】

年3回のコンペ。毎回20数名の参加者が和気あいあいとプレーを楽しみ、親睦を深めながら日頃の腕前を競い合っています。

【パッチワーク会】

毎月第一月曜日九時から。飾れる小物やタペストリー、様々な形のバッグ等まで、技術向上とおしゃべりを楽しみつつ作っています。

【フラダンス愛好会ユカレリ】

平成14年発足のサークル第一号。介護施設でのビハラー活動等華々しい経歴あり。現在おもな曲目を復習しつつフラを楽しんでいます。

【コーラスひまわり】

何よりも皆で楽しく歌うこと。童謡唱歌から広く親しまれている新曲、プラス仏教讃歌も覚えられる会です。毎月第二・四金曜日。

【お茶べり会】

得意な事が無くても、誰でも歓迎！美味しいお菓子とお抹茶の後は、好みのお茶と共に心ゆくまでお喋りの花を咲かせてます。月一回。

【うづき会】

浄土真宗の教えの原典であるお経を書く写経の会。副住職の話を聞いて、その日書くお経を楽しく学び、集中して書いていきます。月2回、第二、第四火曜日開催中！

【ピラティス】

普段使われない筋肉を刺激して、心と体をバランスよく整える運動。現在企画中！気になる方はお問い合わせください！



第42回弘教寺コンペ

3月3日(火) 24名参加して藤岡市のグリーンパークカントリークラブで開催されました。当日平野部では風が吹き荒れ、プレイが心配されましたが、山間地であったことが幸いし、穏やかな春の気候の中で実施出来ました。



小玉辰朗さんがネット70のスコアで優勝しました。表彰式はコンペ会場で行われ、和気あいあいの中散会となりました。 住職

境町思い出話（昭和25年）

私のうちは、旧国道354号線沿いで「ひのや」と言う煙草と塩、せんべい等菓子類の量り売りの店を営んでいました。「花林糖百円下さい。」とお客さんが来ると、母が換算表を見ながら花林糖を計り売りしていたのが思い出されます。

7月7日は七夕祭りで、七夕飾りが境町の町並みを飾りました。また、7月の24、25日は、世良田八坂神社の祇園祭りが催されました。当時は、関東の三大夜祭りの一つとして大変な賑わいでした。私の家も店先に八坂飴を並べて切り売りしました。道路が人でごった返し八坂神社へ向かう人の波が夜中まで続きました。

昭和31年11月新市町村建設促進法が施行され、境町と尾島町が世良田村の合併を競い合いました。最終的には世良田村は分損合併となりました。早川を境に（上矢島・西今井・三ツ木・女塚・栄・米岡・平塚）が境町に合併し、境中学校入学時には、合併してできた境東小在校生2クラス80名が新たに加わり一学年7クラス289人の大所帯となりました。



今では、車社会とシャッター商店街が町の賑わいを失わせ誠に残念な今日この頃です。
橋本豊

京都〜群馬ぶらり自転車旅（最終回）

十日目（三月二十四日）。ついに東京の秋葉原から群馬の弘教寺まで最後の旅が始まった。朝、築地本願寺に参拝して出発。弘教寺までの道のりはだいたい六十キロくらいかなーと高をくくりながら出発したが、調べてみるとしつかり百キロ程度の距離があった。お晨朝（おあさじ）の関係で早く出発したのが功を奏して、余裕を持って走ることができた。道中のお昼は上尾市にて武蔵野うどんに舌鼓を打ち、エネルギーを補給したことで、風が少し強い中でも力強く進むことができた。最終盤、何度も見たことある景色、何度も通ったことがある道に入ると、より一層帰ってきたなという思いが深くなった。午後三時四十五分ごろ、走行距離は七百キロ超え、走行時間は十日間で四十四時間以上という長い距離と時間をかけて、弘教寺への帰省を果たした。



「疲労もあつたが、強い達成感があり、総じてやってよかった」と思えた旅であった。何より、親鸞聖人が京都に帰られた道を、だいたい逆走する形で走ることができたのは、親鸞聖人のご苦勞を少しでも味わうことのできた体験であった。この経験を自らの糧として、胸を張って京都から群馬まで自転車帰ってきたといえる人生を送っていききたいと思う。

釋真瑛

編集後記

90の声を聞く我が身が、いつもの散歩道で想うことです。それは先に往生の両親に、よくきたな！と言われる生き方をしていかと考えさせられることです。幼いころから、この世の生き方を両親から教えられ、今では妙好人より真実の生き方を学ぶ。妙好人の阿弥陀さまにおまかせした生き方に、少しでも勤めたいものです。

『忘れても 慈悲に照らされ』

南無阿弥陀仏（才市同行）

大乘3月号 お寺の掲示板の記事です。

釋蒙照

◆ 行事予定 ◆ 令和8年4月 ~ 令和8年7月				
月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
4月	4日(土)	花まつり	5日(日)	組内会(敬西寺)
	18日(土)	世話人会		
	23日(木)	婦人会例会・お花見茶会		
	29日(水)	永代経法要		
5月	17日(日)	壮年会総会		教区仏壯連盟総会
	19日(火)	婦人会総会		
			27日(水)	組会(重恩寺)
6月	2日(火)	弘教寺ゴルフコンペ		
		婦人会例会	26日(金)	群真会ゴルフコンペ 音御堂 at 築地 2026
7月			6日(月)	組仏婦連盟総会 (重恩寺)
		壮年会例会		
		婦人会例会		